



The 34th  
Annual Meeting of  
the Japanese Clinical  
Orthopaedic Association

第34回  
日本臨床整形外科学会学術集会 トキめき学会・新潟  
共催セミナー11

日時

2021年 **10月18日**(月) 18:50~20:00

本セミナーはWEBによるライブ配信となります。  
詳細は学会公式ホームページよりご確認ください。  
<https://shinsen-mc.co.jp/jcoa34/>

# ロコモ原因疾患としての 骨粗鬆症治療の現状と展望

座長

**渡邊 省二** 先生

渡辺整形外科医院 院長

演者

**石島 旨章** 先生

順天堂大学大学院医学研究科  
整形外科・運動器医学 主任教授

本セミナーでは、下記のいずれかの単位を取得することができます。

日本整形外科学会 専門医資格継続単位 (N) 運動器リハビリテーション (Re) 1単位  
必須分野: [4] 代謝性骨疾患 (骨粗鬆症を含む) または [12] 膝・足関節・足疾患

単位の申込方法詳細は学術集会ホームページをご覧ください。

共催: 第34回日本臨床整形外科学会学術集会 トキめき学会・新潟  
中外製薬株式会社

# ロコモ原因疾患としての 骨粗鬆症治療の現状と展望

順天堂大学大学院医学研究科  
整形外科・運動器医学 主任教授

石島 旨章 先生

超高齢社会に突入した我が国においては、女性の平均寿命が87歳を超え、約半数の女性が90歳の誕生日を迎えることができるようになってきました。従って、平均寿命とともに健康寿命の延伸に向けた方策が求められています。

運動器疾患の重症化を防ぐこと、さらには発症を予防することを包括的に捉えるロコモティブシンドローム（ロコモ）の概念の創出はその試みのひとつです。骨粗鬆症性脆弱性骨折と荷重関節の変形性関節症である変形性膝関節症、そして脊柱管狭窄症は、高齢者においてロコモを招く原因となる代表的な運動器疾患です。

現時点では、この中で骨粗鬆症のみが脆弱性骨折というイベントの発生もしくは重症化を抑制し得るエビデンスを有する治療法が存在します。それは、閉経後骨粗鬆症の病態の理解が進み、それに基づく対策（治療）が確立されてきたからと考えられます。これを長期に継続することで脆弱性骨折の発生を抑制させることができれば、超高齢社会における健康寿命の延伸に寄与できる可能性が高まります。骨粗鬆症治療によって患者の生活の質向上に寄与するためには、継続した治療を長期にわたり実施することが大切です。しかし、日常臨床ではすべての患者に治験で得られたような効果を得ることができるわけではありません。さらに、骨粗鬆症治療が本格化してから約20年前後が経過し実臨床から得られてきたエビデンスも蓄積しつつあり、単一の治療薬を長期にわたり使用し続けることは困難かつ効果に限界があること、そして治療薬切り替え時にも注意を要する必要があることなどが明らかとなってきています。

本講演では、現状と展望という観点から骨粗鬆症治療について考えてみたい。

